

第5回 ESD ティーチャー・フォローアップ研修会 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇開催日時 2022年1月27日(木) 19時～20時30分

◇方法 ZOOM を用いたオンライン研修

◇参加者数 8名

◇内容

6年 総合的な学習の時間「わたしたちのまち 美野島商店街 ～住吉っこにできることは何か～」

福岡市立住吉小学校：大島 英樹先生

【実践の背景】

学校近くの美野島商店街は、「博多の台所」として、多くの方々が商店街を頼りに買い物に来ていた。近隣に大型ショッピングモールやスーパーもあるため、人の流れは商店街よりもショッピングモールやスーパーに流れている。

商店街で働く方々の高齢化及び後継者問題、商店街に人が集まらないという課題もある。

(最盛期には160店舗あったものが、現在は40店舗ほど)

→ 子どもたちにとって美野島商店街は通学路ではあるものの買い物に行くところではない
まずは、近くの商店街がなくなってしまうかもしれないという課題意識をもたせたい(自分事化)

【実践の概要】(全10時間)

1. 美野島商店街元理事長をGTとして招き、自分たちの住んでいる町の歴史について講話を聞かせる
商店街の歴史や現状、課題、またそれに対する思いを語っていただいた。
「博多の台所 美野島商店街を復活させたい！」 手作りのプレゼン
2. 美野島商店街の現状や課題を見学・インタビューで調べる
(コロナ禍で授業では行けず、放課後各自に任せた)
 - ・時間によっては人が少ない。
 - ・新しい店舗もできている。
 - ・商店街は地域にとっては必要である。
 - ・子どもが買い物をするとおまけをくれる店があった。子どもに優しい。
3. 商店街が続いていくために自分たちにできることは何かを考え、話し合う
 - ・商店街に足を運んでもらうために、チラシを配るといいと思う。
 - ・お店にポスターを貼ることで、お店の人もお客さんも喜んでもらえると思う。
 - ・夏祭りのSNSで商店街のアピールをするといいと思う。
 - ・お店に飾りをつけて明るくするともっと人が集まると思う。

→ 現実的なもの、喜んでもらえるもの、継続的なものを6年生全体で考える
→ ポスター、チラシ、来店のお礼カード
4. 分担して作成
5. 商店街の人に渡す(贈呈式)
6. 住み続けられるまちづくりのために自分が今後も継続してできることを考える
SDGsの観点から、継続的にできることの視点を持たせ、自分ごととして再びとらえさせる。

【成果と課題】

- 美野島商店街は住吉のまちにとって大事なコミュニティの場であり、生活に必要な場であることを認識し、高齢世代から若い世代までが世代間を越えて守っていこうとする態度が生まれてきた。
商店街で買い物をする家庭が増えた 顔が見える買い物のよさ
- 商店街との関わりを通し、様々な人とのつながりが豊かな学びになっているという自覚が生まれた。
商店街の人たちと仲良くなって、毎日のように声をかけてもらえるように。
今も店にポスターを貼ってもらっている
- 他教科との関連から、カリキュラムマネジメントを考えていかないと単発の実践に終わってしまう。

【意見交流から】

- ・来年の6年生にこの活動を引き継いで、学校としての継続した取組として5年はやってほしい。
学校と地域が一体となった町づくりに関わって大事な視点だと思う。
5年生のあいだに取組を伝え、今の6年生の頑張りをしっかりと受け止めてもらえるといい。
→ 現在、来年度のカリキュラムについて校内で検討中。ぜひその方向で進めていきたい。
- ・この子どもたちが中学生になって、どういう活動をするかが楽しみ。
中学校では、小学校でどのような学びを経てきているかという連携不足が顕著。
本来はもっと校種間で連携していかなければいけないのだが・・・
小学校でも、もっと幼稚園・保育園と連携していく必要がある。
→ 小中連携校になっているので、カリキュラムの校種間連携はやりやすい。
- ・商店街の見学は、授業ではなく放課後自由に行かせたということだが全員行ったのか？
→ 約半数の子どもが自主的に見学に行ったり、インタビューを行ったりした。
行きたくても様々な事情により行けない子もいる。
そんな子のための対応策として、先生が商店街に行ってオンタイムでその様子を配信する実践も。
- ・この学習のカリキュラムマネジメントの具体的方策として
商店街のテーマソングづくり（音楽）
商店街のキャラクター作成（図工）
インタビューの仕方、キャッチコピーの作り方（国語）
商店街と学校がタッグを組んだイベント（総合で依然取り組んでいた相撲大会の賞品提供など）
いろいろな展開が考えられると思う。
- ・全国各地で見られる商店街の衰退に対して、どこでもできそうな実践である。
商店街の元理事長の思いに触れたことによって、子どもの意識が大きく変わった。
人との出会いの大切さ
- ・地域の商店街は単なる商業施設ではなく、地域における大事なコミュニティの場であるという認識が子どもの中に醸成されていったところがとてもよい。